

# ① 他人でなく自分でやる!!

## — 近所の絆を大切に —

日吉町一丁目自主防災会（前橋市）

### 団体概要

設立年度：平成8年度  
人口：606人  
世帯数：280世帯  
（ともに平成23年3月31日現在）



▲ 自主防災会訓練時の様子

### 地域の状況

地理的状況：平野部  
地域の概況：前橋市の中心部に近く閑静な住宅地域であり、付近には群馬県民会館、県立図書館、前橋商工会議所等の建物があり、隣接して、10,000㎡の大きな緑地公園がある。  
過去の災害：昭和22年9月のカスリン台風襲来の際に、町内を流れる佐久間川の氾濫により床上浸水被害を受けた。

### ○組織結成の経緯

（結成までの経緯）

●阪神淡路大震災を機に、前橋市から自主防災組織結成の呼びかけを受け、当時の自治会役員により自治会内に組織を結成した。

（結成の際に苦労、工夫したこと）

●行政の指導を受けて結成している。結成後、平成16年までは主立った活動がなかったので、活動を活性化させるために、大勢の地域住民が参加できる防災訓練にすることや訓練の参加呼びかけを工夫している。

（行政の関わりなど）

●組織結成の際には、組織編成や自主防災組織の活動等について、市の指導を受けている。組織再編成後は、防災講演会の開催、防災訓練実施に向けた指導を受けるなど、効果的な連携を図っている。

### ○特徴的な取り組み内容

（自主防災組織活動の詳細な内容）

●防災会として、日ごろから「避難時の心得」、「非常食、防災用品の整備」、「災害時の行動計画・避難場所」について啓発活動を展開している。

●平成19年から毎年1回、防災講演会を開催し、参加者には、会長から防災講習修了証（修了回数により金・銀・銅の色の修了証）を授与している。

●平成18年から毎年1回の防災訓練を実施している。防災会の日ごろの活動を基に計画の点検などを目的に、これまでに初期消火、煙体験、避難、応急担架づくり、担架による搬送、AED等による蘇生、炊き出し訓練を実施している。

（避難計画）

●一次避難所へ避難するまでに地域各組の安否確認や集団での避難活動を行うために、各組で「初期避難場所」を定めている。「組・班避難状況確認表」により、安否確認、建物の被害状況等を把握することとしている。また、高齢者世帯の把握、避難時の危険箇所及び避難路を図示した計画等を策定している。

（行政の関わりなど）

●防災講演会では、前橋市役所危機管理室から講師を招いて、また、初期消火訓練を始め応急手当の要領等は地元消防署と連携を図り対応している。



▲ 担架救助訓練の様子



▲ 炊き出し訓練の様子

## ○組織の形態

会長（自治会長）-副会長-班長（情報、救出・救護、避難誘導、消火、給食・給水）-副班長2名-班員

## ○活動の成果や問題点など

【よかった点など】

- 防災訓練参加者が回を追うごとに増え、地域の絆が強くなったこと。
- 地域の防災意識が高まったことで、自主防災組織活動にやりがいを感じる。

【苦労した点など】

- 防災訓練に住民の半数以上が参加しないことには、発災時に組織活動が機能しないというおそれがある。地域住民の8割の参加を目標に訓練内容を検討、回覧板、放送車を活用して開催を周知したり、非常食、豚汁の試食会、講演会修了証の授与などを行うなど工夫を凝らしている。

（行政の関わりなど）

- 消火訓練の実施方法の指導、起震車による地震体験や煙体験など疑似体験、装備品を活用する訓練を導入するなど、効果的な活動を行うために連携している。

## ○活動の課題や今後の取り組みの予定

【課題となっていること】

- 前橋市は災害が少ないという意識が強く、このために毎年訓練を実施しなくても良いのではないかという意見もある。
- 災害時要援護者情報の把握活動に抵抗感がある。

【課題解決のための取り組み計画】

- 防災講演会を通じて、災害への備えに対する重要性などの意識啓発を図っている。
- 訓練参加者を増やすための工夫や訓練内容の精査を行い、飽きられないように重点項目を決めた訓練計画を策定している。ガスが止まった場合に備え、薪による炊き出し訓練も予定している。
- 隣近所との交流のきっかけづくりのため、公園清掃、ふれ合い広場などを通じて絆を強めている。

（行政の関わりなど）

- 自主防災組織の活動が、実際の災害発生時に機能しない場合には、命に関わることとなる。防災会が担う役割、使命は大きなものがあると思うので、これらを果たすため、さらに効果的な活動を展開していくために、今後も行政機関との連携を図って対応していきたい。